

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 22 日現在

機関番号：12501

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2010～2014

課題番号：22710244

研究課題名(和文) 冷戦期のアメリカにおける文化外交政策と社会運動の相関 音楽を中心に

研究課題名(英文) A Comparative Study on the Roles Music Played in Cultural Diplomacy and Social Movements in the U.S. during the Cold War

研究代表者

館 美貴子 (Tachi, Mikiko)

千葉大学・文学部・准教授

研究者番号：60376580

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は冷戦期のアメリカ合衆国において、音楽が文化外交政策および社会運動の中で果たした役割について比較検討し、その関係を探ることを目的として行った。文化外交、社会運動の担い手となった音楽家や政府関係者、活動家、批評家などの経験や思想を解読し、彼らが音楽を通してどのようなアメリカ像を発信したのか、そしてそれが国内外の受け手にどのように受容されたのかを解明することにより、音楽に付加された意味が交渉される様相を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This study compared the roles music played in social movements and cultural diplomacy in the U.S. during the Cold War. It analyzed the ways in which musicians, government officers, activists, and critics interpreted the meanings of music and negotiated the conflicting views of the U.S. while American musicians were performing and sending messages abroad. My research also revealed how their music and messages were perceived overseas, with a particular emphasis on the Japanese reception of American folk singers.

研究分野：地域研究

キーワード：冷戦期のアメリカ文化 社会運動と音楽 文化外交と音楽

1. 研究開始当初の背景

本研究に着手する以前の研究は、戦後アメリカの消費文化と社会運動における音楽の役割と、アメリカ文化の日本における受容と変容について、1950～1960年代のフォーク・リヴァイヴァル運動に焦点を当てて分析するものであった。戦後アメリカにおいて、消費文化は物質的な豊かさを反映するだけでなく冷戦下におけるイデオロギーとして機能し、ナショナリズムと結びついて国内で支配的な思想となるだけでなく、海外にも文化的生産物を通して輸出された。そのような中で、元来伝統的な民謡を意味するフォークソングは商業主義の対極にある音楽とみなされたことから、アメリカ主流文化に対抗する手段としてカウンターカルチャーを担う若者を中心に愛好された。また、1930年代から労働運動の高まりの中、社会運動の道具として利用され変容を遂げたフォークソングは、戦後も公民権運動や反核運動、反戦運動などを通してプロテストソングとしての性格を強めた。国内での人種差別撤廃運動は国外の異文化理解促進へと結びつき、アメリカの活動家による非西洋文化の積極的な導入が行われた。フォークシンガーや愛好家は、非西洋を中心とする外国の音楽を取り入れることにより、アメリカ主流文化のエスノセントリズムと人種差別、西洋中心主義を批判した。このことにより、フォークソングの範疇に本来の音楽的な定義を超える様々な音楽が入り込み、フォークソングは音楽的特徴により定義されるジャンルというよりもむしろ社会的文化的価値観によって定義される、国内の支配的なイデオロギーへのアンチテーゼの象徴としての意味が強くなったことを明らかにした。

さらに、このアメリカにおけるフォークソング・リヴァイヴァル運動がどのように海外で受容されたのかについて、1960年代の日本をケースとして研究してきた。アメリカのフォークシンガーはアメリカ主流文化を批判し、国際協調を説き、より文化的に寛容であることを目指す中、積極的に海外を訪問して草の根的な文化外交を行ったが、その際現地の伝統音楽を尊重し、自らの演奏にも取り入れることを心がけた。その前提には、非西洋諸国の人々を、白人中産階級を中心としたアメリカの主流文化とは異質の文化を保有する、国内のマイノリティーの延長として認識するという、一種本質主義的な想定があった。日本の音楽家や愛好家はその想定を共有せず、両者の意識の齟齬が明らかになった。

また、アメリカの政治・文化的指導者たちは、映画などの大衆文化を国内外の観客にアメリカ的価値観を教える道具として積極的に利用した。占領期の日本での映画を通じた民主主義教育政策(Susan Smulyan, *Popular Ideologies* [2007])や、冷戦期に東洋との交流を描きミドルブラウのアメリカ人にアジ

アとの同盟関係の重要性と東洋人との付き合い方を教えたミュージカルや小説(Christina Klein, *Cold War Orientalism* [2003])などが例として挙げられる。歴史学者 Penny von Eschen は著書 *Satchmo Blows Up the World: Jazz Ambassadors Play the Cold War* (2005)で、文化外交政策を決定していた国務省と実際に文化大使として派遣されたジャズ音楽家たちの間にみられた人種・階級意識における齟齬について論じ、民主的なアメリカ像を広めようとする国務省と、その偽善と国内の人種問題を海外で指摘してはばからない音楽家との対立などを描いている。また、公民権運動はアメリカ国内の問題ではなく、冷戦下におけるアメリカの外交政策や人種をめぐる対外イメージが運動に貢献し(Mary Dudziak, *Cold War Civil Rights* [2000])、ヴェトナム戦争も国内の人種・階級格差を浮き彫りにしたように、国内・国外問題は密接に結びついていた。また、Smulyan が指摘したように、文化的生産物に内包されると考えられたメッセージは不透明かつ曖昧なものであった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、冷戦期におけるアメリカ合衆国の文化外交政策と、同時期の国内における社会運動の双方において、音楽がどのような役割を果たしていたのかについて比較検討し、その関係を探ることにある。文化外交が政府主導の公的なアメリカ理念を表現しその輸出を試みるのに対して、社会運動はアメリカ理念の矛盾を指摘し自省を促すものであった。そのように交錯するアメリカ理念を音楽家がどのように交渉したのかを分析すると同時に、これらの理念が海外でどのように受容されたのかについて、日本をケースとして検証することを目的とした。

3. 研究の方法

米国議会図書館アメリカン・フォークライフセンター(米国ワシントンDC)や国会図書館における文献調査、日米における雑誌新聞記事、音楽家や批評家、音楽や関連する産業における実業家の回想録や伝記等の出版された資料の収集と解析を行ったほか、アメリカ国立公文書記録管理局(米国メリーランド州カレッジパーク)に保管されていた文化外交に関する国務省の文書を取り寄せ、分析を行った。

4. 研究成果

本研究は、戦後アメリカの文化外交と社会運動における音楽の役割を比較検討するも

のであるが、その際に焦点をあてたのが、実際に活動に参加した音楽家の経験や思想であり、文化外交、社会運動の担い手である彼らがどのようなアメリカ像を発信したのかを解明するとともに、それが海外でどのように受容されたのかを日本のケースに限定したうえで明らかにした。

文化外交における音楽の役割については、ワシントンの議会図書館での調査を行い、国立公文書記録管理局からも関連した資料を取り寄せることにより、文化外交に携わった米国国務省の職員や文化大使として海外で活動した音楽家たちの活動の詳細と評価とを、公的な文書や彼らの手紙や報道等の分析を通して明らかにした。特にフォークソングに関しては、同時代のフォーク・リヴァイヴアルにおいてトピカルソングなどを通して社会運動に関わった音楽家との比較検討を行い、文化外交の担い手がフォークソングの流動的な定義を利用して脱政治化を行った様相と意義などについて論じた。

社会運動における音楽の役割については、音楽の政治的利用に関して歴史学、社会学、音楽学等に偏在していた二次資料を網羅的に収集し検証したうえで、殊に、プロテストソングの意義については、雑誌記事等の一次資料をもとに音楽家の証言を分析し、第二次世界大戦前の労働運動に関わった活動家との比較を通して、政治的であることの定義が変容したことを示した。

また、1960年代に訪日したアメリカ人フォークシンガーの受容に関するケーススタディを行い、音楽家の発信した政治的なメッセージが観客によって選択的に受容される様相などを明らかにした。さらに、冷戦期のアメリカ文化の普及と受容という観点から、音楽に付随して日本で発展を見せた服飾文化についても、新聞・雑誌記事やその他の出版物をもとに分析を行って検証するなど、より広範な影響についての研究を進めた。音楽に付加された意味が受容者によって交渉される様相を解明した。

研究成果の国際的な発信についても積極的に行った。アメリカ研究の分野において最も権威のある米国アメリカ学会（American Studies Association）の年次大会を含む国際会議での研究発表を行ったほか、査読付きの海外の学術雑誌にも論文を掲載することができた。国際学会の場では、アメリカ研究者のみならず、社会学者、歴史学者、音楽学者、日本研究者など関連分野の専門家との意見交換を行うことができた。

この研究は、学際的国際的視野からアメリカ文化を論じるものであり、外交史や社会運動の歴史を音楽から読み解く点と、アメリカ文化の日本における変容についてトランスナショナルな視点から分析するところに意義がある。労働運動、公民権運動、反戦運動、環境保全運動など、20世紀アメリカにおける社会運動に関する研究において、音楽の役割

を中心に論じたものは少なく、音楽は二次的に扱われる傾向にあった。しかし実際に運動に関わった人は音楽の重要性を実感しており、回顧録やインタビューなどでそれが強調されている。これらの声を分析対象として取り入れることにより、音楽が積極的に文化形成を担っていたことを示すという意味で、本研究は新しい視座を提供している。

本研究はさらに、アメリカ国内の社会運動を、近年研究の進んでいる文化外交史に関連させたことを特徴としている。ともに当事者が音楽を思想や情報を伝達し異質な人々の交流を促す力を持つものとして認識したうえで、あるべきアメリカ像や理念を提示する活動であり、その接点と交錯する考えを明らかにした。

さらに、アメリカ文化が国境を越えて存在し、現地の文化と接触し融合することで複雑化する流動的な存在であるとするトランスナショナルなアメリカ文化研究は、米国アメリカ学会が近年推進しているアプローチでもあり、本質主義に基づく異文化比較に代わる方法論として国内外の研究者により用いられているが、言語的な制約から、文化外交政策に関する研究において受け手である外国での受容についての分析が欠如していることも多かった。本研究はその点においても貢献をするものである。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計3件）

Tachi, Mikiko. "Singing Ambassadors: The Role of Folk Singers in U.S. Cultural Diplomacy during the Cold War." *Proceedings of the 13th Hawaii International Conference on Arts and Humanities* (2015), 233-252. アブストラクト査読有

Tachi, Mikiko. "Ivy Fashion, Folk Music and the Japanese Perception of American College Culture in the 1960s." *The Australasian Journal of Popular Culture* 2-3 (2013), 439-456. 査読有

Tachi, Mikiko. "Music and Social Movements in the United States." *Proceedings of the 11th Hawaii International Conference on Arts and Humanities* (2013), 1018-1033. アブストラクト査読有

〔学会発表〕（計6件）

Tachi, Mikiko. "Singing Ambassadors: The Role of American Folk Singers in U.S.

Cultural Diplomacy during the Cold War." 13th Hawaii International Conference on Arts and Humanities. 2015年1月 ホノルル(米国)

Tachi, Mikiko. "Music and Social Movements in the United States." 11th Hawaii International Conference on Arts and Humanities. 2013年1月 ホノルル(米国)

Tachi, Mikiko. "Folk Music and the Racial Imaginary in the U.S. and Japan." American Studies Association Annual Meeting, November 2012. 2012年11月 サンファン(米国)

Tachi, Mikiko. "The Ivy Fashion, Folk Music, and the Japanese Imagination of America in the 1960s." Asian Studies Conference Japan. 2012年7月 立教大学(東京都・豊島区)

Tachi, Mikiko. "Guitars and Brooks Brothers: The 'Ivy' Fashion and the Representation of American Collegiate Culture in Japan during the 1960s." East Asian Popular Culture Association Inaugural Conference. 2011年9月 台北(台湾)

Tachi, Mikiko. "The Reception of U.S. Cultural Diplomacy in Japan during the Cold War," American Studies Association Annual Meeting. 2010年11月 サンアントニオ(米国)(代読での発表)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

舘 美貴子 (Tachi Mikiko)

千葉大学・文学部・准教授

研究者番号：60376580